



写真は同盟国連要請団主催による国連NGOとのブリーフィング



No.351

編集発行人 中西三洋  
治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都  
文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター・全労連  
会館  
電話 03(5842)6461  
FAX 03(5842)6462  
振替 00110 6 97793  
定価 50円

# 憲法改悪の策動をうち破り 50万署名の年末60%達成へ

小泉首相は、ついに二〇〇五年十一月までに、と期限を定めて憲法「改正」案をまとめるよう自民党に指示しました。

これは、一貫して集団的自衛権の行使を可能とするための改憲を迫ってきたブッシュ政権の要求に従って、憲法第九条を改廃し、アメリカの無法な戦争に全面協力する日本に、根本からつくり変えようとする重大な策動です。政府自民党は、きたるべき解散総選挙にむけて「改憲」を争点として押し出す意図さえも公言しています。しかも国民生活をさらに困苦のどん底に追いこむ消費税の大幅値上げも強行しようとしています。

一方、来年度防衛庁予算案では、「ミサイル防衛」や「ヘリ空母」の導入など、日本防衛ではなく、海外への先制攻撃部隊としての自衛隊改造計画が公然と企てられています。このような、日本を再び「戦争国家」に仕立てる策動を絶対にゆるすことはできません。

侵略戦争と暗黒政治への反省を日本政府にきびしく迫り、五〇万署名の達成めざして奮闘しているわが同盟が今こそ大きくうって出るときです。大いに情勢を語り、年末までに署名六〇%達成めざす旺盛な活動で、日本国民の宝物、日本国憲法を守りぬく決意を広範な国民の中に広げていきましょう。

## 主 な 記 事

ブロック会議について	2
国連要請・発言・報告	3・4
「顕彰碑」河上肇、「時の焦点」9・18事件	5
「抵抗の群像」上甲米太郎	6
「文芸」、「書棚」『豊かさの条件』暉峻淑子著	7
「戦争展」(愛知)、映画評、事務局日誌	8

# 全国ブロック会議の成功を 50万署名達成が意義をもつ情勢

中央本部組織部長 神戸 照

九月から十月初旬にかけてブロック会議がおこなわれます。今年  
のブロック会議は、第31回全国大会、県本部、支部の決定にもとず  
く活動を学び、豊に前進させると  
ともに、各組織がそれぞれの地域  
で同盟にふさわしい運動を進展さ  
せている活動を交流します。

同時に五〇万署名達成が強く求  
められている情勢を確認し、目標  
達成への決意を固める会議とする  
ことが重要です。

## ブロック会議日程

- 9月2・3日、東海良(岐阜)
- 9月13・14日、四国良(高知)
- 9月15・16日、関東B(神奈川)
- 9月17・18日、東北・北海道  
B(青森)
- 9月22・23日、中国良(鳥取)
- 9月23・24日、九州良(熊本)
- 10月1・2日、関西良(大阪)
- 10月7・8日、北信良(新潟)

小泉首相は、「自民党を変える」とい  
い、国民の支持を得ながら歴  
代自民党内閣のなかでも最悪の反  
動政治を強行しつつあります。イ  
ラク「特措法」への自衛隊派兵は  
世界の世論から孤立し、日本国内  
でも多くの反対運動のある、アメ  
リカの侵略戦争加担、民主主義抑  
圧への危険な道です。さらに最近  
は憲法改悪の検討を自民党に指示  
しています。

## 50万署名の 目標実現は可能

治安維持法犠牲者は、天皇制政  
府の侵略戦争と暗黒政治と闘った  
先覚者です。犠牲者の国賠要求実  
現をめざして運動している同盟  
は、小泉政権の危険な道を深く認  
識している大衆組織であり、自衛  
隊派兵阻止の運動のなかで特別の  
役割が問われています。五〇万署  
名の達成はこの運動を激励し勇気  
をあたえ、さらに運動をひろげま  
す。

昨年、秋田県をはじめ先進組織  
では五〇万署名目標を達成した経  
験をもっており、こんにち五〇万  
署名は全同盟の組織が実現可能な  
目標となっています。署名運動を  
通じ、「再び戦争と暗黒政治を許さ  
ない」世論を広めることが国賠要  
求実現への展望を開きます。今年  
こそ目標達成の決意を固める会議  
としましょう。

## 支部づくりと結び

### 署名活動で飛躍を

岡山県本部

県本部総会は七月二十九日、県役  
員、幹事、支部代表など二十六人  
が出席して開かれました。「五〇  
万署名に見合った県目標一万筆を  
かかげながら、五〇%到達にとど  
まったのはなぜか」をめぐって活  
発に議論。

「県目標を決めたがそれが全支  
部の目標として確認されていな  
い」、「支部づくりが署名運動飛躍  
の土台だ」、「地方議会の意見書採  
択がこの一年間に二市十七町から  
二市二十四町に前進したことに確  
信をもち、関係住民への運動の到  
達点を宣伝、秋田県のように署名

の拡大、飛躍に結びつけることが  
大事」などの発展方向が出しあわ  
れました。

情勢に見合った活動にしてい  
くために、有事法制、イラク派兵  
法を発動させない地域共闘に積極  
的に参加し、一萬署名目標の達成  
を確認しました。(則武真一)

## 反動化との闘いと

### 同盟運動の強化

山形県本部

今年度の活動は平和憲法制定後  
の民主主義の発展と、それに逆行  
する反動との闘い、そして同盟の  
役割を重視する。

県支部から県本部へと変化させ  
た約18年間の組織的な前進面と  
もに、残されている課題として、  
①過去の闘いに光を与え顕彰する  
「掘り起こし」

- ② 「再び戦争と暗黒政治を許さな  
い」を現実のものにする地方議  
会請願採択運動と署名活動
- ③ 主体的な力量の強化
- ④ 国民の命と暮らしを守る憲法を  
厳守する運動
- ⑤ 真の革新を強める国政選挙での  
勝利のための活動を強める。

(鈴木光子)

## 国連人権小委員会 で訴えた 島袋代表



7月30日、国連(ジュネーブ)人権小委員会にて英語で発言する島袋達男(国際部員)

前略

すでによく知られているように、戦前の日本の天皇政府は、一九三二年から一九四五年にかけてのアジア・太平洋地域への侵略戦争の中で、南京大虐殺、七三一細菌部隊による生体実験、従軍慰安婦と呼ばれる性的奴隷、また植民地の一般住民に対する強制連行と強制労働、捕虜虐待など、人権無視・破壊の戦争犯罪を犯しました。その犠牲者はアジア太平洋諸国で二〇〇万人、日本国民三〇〇万人に及びました。こうした侵略戦争を遂行するために、天皇政府は「治安維持法」という弾圧法を制定し、侵略戦争に反対し自由と民主主義を求めた良心的な人々を徹底的に弾圧しました。その犠牲者は数十万人、そのうち約二〇

〇人が拷問によって虐殺されたり獄死しています。

こうした人道に反する戦争犯罪を犯しながら、戦後日本政府は、それらは遠い過去の問題であり、また戦前の天皇政府には国家責任がないとして、様々な戦後補償要求に対して一切応じようとはしません。日本政府は侵略戦争に従事した軍人には戦後、恩給を払い続けているにもかかわらず、命がけで戦争に反対し投獄され拷問された人々には謝罪も賠償もしようとはしないのです。それどころか最近では侵略戦争を正当化し美化する動きを強めるとともに、一昨年アメリカで起きたテロ事件を好機として、戦時中の国家総動員法のような有事法制を制定し、平和憲法に違反して、アメリカの軍事行動に全面的に協力して海外派兵さえ行おうとしています。

今、世界は戦争か平和かをめぐって大きく揺れ動いています。この状況の下で、戦後補償の問題は、過去の問題ではなくきわめて今日的な問題であります。

しかしながら、戦争は犯罪であり、また戦争犯罪及び人道に反する罪に時効はない、との認識はい

まや国際的な合意となり、それはまた昨年発効した「国際刑事裁判所設置」に関するローマ規定にも力強く盛り込まれました。

国連人権小委員会は、こうした国際的な合意を国連の場を通して発展させていくべき任務を負っているといえます。こうした観点からも治安維持法犠牲者をはじめとする戦後補償問題の解決にむけ、日本政府に対しぜひ見識ある対応をしてほしいのです。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟(一万三五〇名)は一九六八年の結成以来、「再び戦争と暗黒政治を許すな」というスローガンのもとに、日本政府に対し、侵略戦争を反省し、犠牲者への謝罪と賠償を行うよう、ねばり強く運動を続けています。

一九七四年以来毎年、国家賠償法の制定を求める請願署名を全国から集めて国会に提出し、今年の国会請願では国会議員一七四名の賛同を得ています。また三二八の地方議会が治安維持法犠牲者に対する「国家賠償法の制定」に賛同する決議をあげています。さらに私たちは法務大臣にも会見し、私たちと政府の担当部門との間での

定期的な話し合いの場を設けるよう申し入れもしています。

このときに、この小委員会から日本政府に対する適切な勧告があれば問題の解決に一步近づくことは間違いありません。治安維持法による犠牲者は年々死亡し、また生存者も高齢化しつつあり、一日も早い解決が必要です。

私はこの小委員会が今度こそこの問題に注目され、以下についてご検討くださるよう強く訴えます。

1、治安維持法犠牲者をはじめ、日本の侵略戦争にかかわる犠牲者に対する戦後補償問題について、日本政府が誠意をもって解決するよう勧告されること。

2、治安維持法犠牲者の問題について日本政府内に担当部門を置き、われわれ同盟との間での定期的な話し合いの場を開設するよう勧告されること。

3、日本政府に対し「戦争犯罪および人道に反する罪に対する時効不適用条約」を批准するよう勧告されること。

4、治安維持法犠牲者の問題について、特別報告者を指名し、調査をしていただくこと。

# ジュネーブで国際連帯の輪ひろがる

## 国連活動報告

斎藤久枝

曲田 弘

好と連帯を深めました。(国際部)

感想・国連ツアーに参加して

七月二十八日から3週間、スイスのジュネーブで開かれた「国連人権促進と保護小委員会に、同盟国際部からは斎藤久枝、鳥袋達男の二名が全会期参加しました。

鳥袋氏は七月三十日「戦後補償問題は、21世紀をつくる今日的課題」と発言(別掲)しました。

「同盟国連要請団」二〇名は、ジュネーブで三泊二日の要請行動を行いました。第一日、八月八日午後は、二時間にわたり国連内で

NGOブリーフィングを行いました。主催者側からは新倉修氏(青山学院大教授)、斎藤邦雄氏(要請団团长)、ゲストスピーカーはアドリアンセン・シュミット氏(対日道義請求財団) 彼女は第二次世界大戦時インドネシア収容所に囚われていましたとヤン・ロン氏(青年学生国際運動事務局長)、議長はヴェレナ・グラフ氏(人民の権利と解放のための国際同盟事務局長)で、人権と平和を守る国際連帯の結びつきが大きく一歩前進したことを実感しました。(詳細は『治安維持法と現代』秋季号)

北は北海道から南は京都、神戸まで20名の老若男女、11日間の旅でした。2日間の国連人権委員会への要請行動と見学、ブリーフィング、ジャパンデーなどNGOとの和やかな交流ができました。五日目のアウシュビッツ強制収容所見学では、前館長のスモーレンさん(83歳)から5年におよぶ収容所生活の悲惨さと命がけの抵抗活動の体験を聞き、最後に斎藤团长が、治安維持法弾圧下の闘いを紹介しお礼の言葉を述べると「それでは私たちと一緒に。同じ気持ちで頑張りましょう」と固い握手を交わしました。チェコでも政治犯の強制収容所テレジン刑務所を見学、ほかに巨峰モンブラン、プラハ旧市街、チェスキーの古城、民族舞踊、音楽会など楽しみ、すばらしい旅となりました。



ビルケナウ第2強制収容所跡

九日夜は恒例の「ジャパン・デー」、ツアー女性達手作りの「ゴマおにぎり」・沖縄のジューゴンの壁掛け」に地元の楽団の出演、盆踊りや「千代子のうた」など盛りだくさんの夕べでした。他NGOからの参加者は四二名(スイス、ブラジル、イタリア、スウェーデン、アメリカ、中国など)総勢約七〇名が近況を語り合いながら友

た木造収容所の列、列：/閉じた檻に、今見てきたアウシュビッツの遺品の数々が/二重の鉄条網、すり減った靴、靴、靴の山/栗色の頭髮、頭髮の山/小さな、小さな子どもたちの服、ホローびぎ、はげ落ちた鍋、鍋の山/ヨーロツパのすべてから集められた人々は、軋む貨車からガス室へ、焼却炉へ/ユダヤ人、政治犯、ジプシー、インテリゲンチヤ、神父/子ども、女性、お年寄り、百十万人から百四十万人の人、人、人、人間が虐殺された/たましいの漂うここに立つ/晴れた夏、ビルケナウ。ヒロシマ忌 ナガサキ忌から二日後。こみあげる No. WAR! NO WAR! 二〇〇三年八月十一日 (神奈川)



なごやかに交流する「ジャパン・デー」

なごやかに交流する「ジャパン・デー」

監視塔に登る。ひろい青空の下、広大な映画セットのような収容所跡/レンガの柱、柱/一部残され

監視塔に登る。ひろい青空の下、広大な映画セットのような収容所跡/レンガの柱、柱/一部残され

顕彰碑

京都市左京区鹿ヶ谷・法然院墓地

河上肇墓碑

マルクス、エンゲルスなどの著作を除いて、『貧乏物語』ほど世の青年を社会主義に目を開かせた著作は少ない。

河上肇(1879-1946)は

山口県岩国市現)に生まれ、岩国学校(旧制中学相当)にすずみ、12歳のときに自ら回覧誌を発行して、『日本工業論』を書き後年の論客の片鱗を見せたといわれる。

山口高校から東京帝大にすずみ、各大学の講師をつとめるかわら著作活動に頭角をあらわし、05年に読売新聞に連載した「社会主義評論」は同紙の発行部数を急増させたという。



思想の変転を経てマルクス経済学に傾き、16年『大阪朝日』に『貧乏物語』を、29年から30年にかけて『改造』に『第一貧乏物語』を連載。

この間、26年の京都学連事件に関連して自宅捜索を受けた。27年『マルクス主義講座』を大山郁夫とともに監修、第一回普選で大山を応援したことなどで三・一五事件直後の4月、政府・大学当局の圧力により京大教授の職を追われた。京大時代指導した「社会問題研究会」からは、のちに虐殺された岩田義道をはじめ有能な人材が輩出した。

32年、共産党から、32年テーゼの翻訳を委嘱され、これを果たしたあと地下生活に入り入獄。33年1月検挙、37年6月満期出獄、以後は書齋生活を送る。

45年頃から栄養失調にかかり46年1月肺炎を併発して68歳で没した。出身の岩国市に没後50周年に建てられた歌碑がある。(写真・京都碑めぐり案内より転載)

今年は一九三一年九月一日、日本が中国東北(満州)の瀋陽・柳条湖で謀略によって侵略を開始してから七二年目。中国では「勿忘九・一八」として当日は真夜中の十時二十分にサイレンを吹鳴し、警鐘している。また瀋陽には立派な九・一八歴史博物館があり日本が中国で何をしたのか?がすっかり伝承されている。

時の焦点

事件後、蒋介石の無抵抗政策もあって、日本は瞬く間に中国東北(満州)を占領した。これは中国人民にとつて深刻な災害をもたらしたが、日本にとつても不幸の始まりであった。

一つは、日本政府はいとも簡単に中国東北(満州)が入ったため以後中国は「脅せばどうにでもできる」と思い込んでしまったこと。そして広大な中国大陸の抵抗の海に会い、全く見通しの無い泥沼にはまり、結果として一九四五年の敗戦に至る道につながった。

占領後の関東軍の犠牲者数は三二年 三万人以上、三三年 四万以上、三四年 約四万、三

「九・一八事件」

五年 約五万五千と一向に安定できなかった。暴力によって作り上げた政権は、結局暴力によってのみしか維持できない!今アメリカがイラクで陥っている状況もよく似ている。

先日NHKスペシャル「届かなかった手紙」で関東軍は何を検閲してきたかを観た。敗戦後焼却しきれずに埋められていた文書が工事の時偶然発見された。番組では関東軍憲兵隊が日本の軍人軍属を含むあらゆる人々の手紙の抜き取り検査をしていたことが検証されていた。特に印象に残ったのは抗日組織で無線通信をしていた趙福元さん(二六歳)が摘発され、その取調べに当たった元憲兵の戦後の供述書に「趙福元は奉天の憲兵隊本部に監禁拷問し哈爾の石井部隊を介し屠殺しました」の記述であった。

今年七月二四日、「残留邦人賠償訴訟」の準備書面で政府は日本の謀略でつち上げて作った満州国を「独立国家」であるとの見解を述べた。厚顔もここまでくると言葉を失うのみである。(倉田)

# 抵抗の群像

## 植民地朝鮮の民衆を愛した

### 上甲米太郎

キリスト教社会主義から  
マルクス主義へ



朝鮮服姿の上甲米太郎 (右)

上甲米太郎の娘で女優のまちは、所属する劇団の宣伝をかねた私信『まち子通信』をときどき友人たちに配っている。

02年8月の『通信』は、所属劇団が上演する三浦綾子原作『銃口』の主人公と父・米太郎を重ね合わせて心情のこもったものであった。

彼女はその1カ月前、韓国ソウルで開かれた国際児童演劇フェスティバルに参加した。その足で戦

前、父が投獄された西大門の刑務所を訪れた。米太郎は1930年12月から2年半をここで過ごし、ソウルの冬は零下20度を越す。監房の前に立つてまち子は、亡き父を思い胸がしめつけられた。

上甲米太郎は愛媛県の現・八幡浜市の旧家に生まれた。米太郎の父はさまざまな事業に手をだして失敗し、身代限りになって朝鮮に渡った。米太郎も大洲中学を出る

と朝鮮に渡り、京城現ソウル)の教員養成所を卒業して教師になった。三年すると慶尚南道の冶炉公立普通学校の校長になった。

米太郎は大洲中学時代に、キリスト教のヒューマニズムに共鳴して入信していた。しかし植民地朝鮮にきて、民衆や子どもの貧しさ、苦しみを見て、キリスト教社会主義からマルクス主義に傾いていく。

雑誌『戦旗』、『プロレタリア科学』などを読み、当時教育者のなかで普及し始めていた新興教育運動に共感し、機関紙『新興教育』の読者獲得などに動いた。

教員としての米太郎は、子どもに朝鮮語で教えた。「朝鮮人になりきらなければ朝鮮人の教育はできない」「朝鮮の子どもから先生おんぶして、と言われるような教師になりたい」というのが彼の心情だった。「あの校長先生は朝鮮語で教えてくれる」と評判になった。「うちのムコになれ」と申し込んでくる者もいた。27年、朝鮮服を着て郷里に帰り、周囲を驚かせた。

米太郎は教育労働者の組織化の必要性を痛感した。京城師範在学中の教え子と連絡をとり、社会科学の読書会を組織させ、教員仲間を『新興教育』の読書会に組織した。

その米太郎に官憲の手がのびる。新教朝鮮支局準備会・教育労働者組合組織事件として逮捕され、治安維持法違反で起訴、京城の西大門刑務所に収監された。

獄中に間島パルチザンに参加して捕まった連中が入っていた。隣の房とモールス信号で情報交換した。見つかった後る手錠をかけられ、犬食いをさせられた。32年12月、懲役2年、執行猶予4年で出獄した。

出獄後は土木工事の帳場係、保険外交員、新聞記者、炭鉱の朝鮮人夫係などを転々とした。長男に伊利一(イリイチ)とつけ、幼いころは礼二(レーニン)と呼び名で呼ばれた。

41年北海道釧路の太平洋炭鉱の朝鮮人担当労務係になった。酔うとアリランやトラジを歌い、独特のしぐさで踊った。その後、福岡県大牟田の三井三池炭鉱に移り、49年、職場を追われるまで人事係として働いた。

『まち子通信』によれば八幡浜市に「上甲米太郎研究所」があり、東京には近代朝鮮史研究所らが「上甲米太郎の日記を読む会」を立ちあげており、第一級の資料とも言われる膨大な「日記」が近く出版される。(文責・佐藤)

同盟歌壇

確田のぼる選

イラク派兵を決めし総理がぬけぬけと憲法守ると広島にいう  
千葉県 行木 権平

評 「ぬけぬけ」に強い批判をこめる。

黄の花にまじりて紅きほうせん花冷たき夏の居間を飾れり(原作)

一二句省略「妻が活けし紅きほうせん花目に沁みて冷夏の居間に心  
やすまる」(改作)

埼玉県 寺島 清文

朝市で働く多喜二の甥いまは誇りもちてカメラに納まる

評 人にかくれて生きた時代もあって。

泊りたる「ホテル123小樽」とは多喜二勤めし拓銀の建物そのもの  
なり(原作)

報告的でなく『ホテル123小樽』とは多喜二勤めし拓銀なり泊り  
て驚く」(改作)

東京都 若林 義文

戦争は理由を問わず阻止をせん憲法九条の歴史いま頭つ

評 憲法九条の歴史こそ平和への力と。

あれこれの種を蒔きたり育つほどに愛しくなりて手を添えてやる(原  
作)

結句修正「あれこれの種を蒔きたり育つほどに愛しさはますわが子  
にも似て」(改作)

俳句

草笛の反戦トラック被爆地へ

和歌山県 山本 長生

「同盟歌壇」の投稿について

選者確田のぼるさんのご協力により、「作歌に一段と意欲的」と好評です。地方誌掲載のみなさんも、「遠慮なく「中原に駒を」お進め頂ければと思います。毎月の投稿は編集の都合上十五日まで。お早目にお願ひします。



『豊かさの条件』

暉峻淑子著

岩波新書 本体七四〇円

追及してきます。

二章から四章の子どもたちや青年の問題に紙数の大半をさき、力を入れてくるのも特徴で、著者の二一世紀未来社会への念願ともいえる期待がこめられています。

いま全国的に「青年に雇用を」の街頭活動が展開されていますが、本書でも国民生活の基盤を揺り崩している「失業問題」が圧巻。一九七〇年前半の1%から今日五・五%前後に急上昇、三五〇万人もの失業状況を明らかにしたうえ、見聞きしたおなじ高度の資本主義国ドイツでの行き届いた失業・雇用対策を紹介、日本の政策の後進性をきびしく指摘しています。

一九二八年生まれの著者は十分に熟年。素養に加えての永年の研鑽はもとより、今日大成の糧は、最近の十数年にわたるユーゴ・スラビアを中心とするヨーロッパでのNGOの難民支援活動の体験。たとえば「魚を贈るより釣り道具を贈れ」が支援の神髄とも語っています。(元)

## 愛知「平和のための戦争展」 三、五〇〇人の参観者で成功

今年で十二回目をむかえた「あいち平和のための戦争展」は8月12日から五日間、名古屋市でひらかれ、イラク戦争、有事法、イラク派兵法制化などの情勢のもと、展示内容は「政府の行為によって再び戦争がおこることのないように」との願いがこめられました。また、中国からの資料参加で、旧「満州国皇帝」溥儀あての天皇の電報などが特別展示されました。同盟県本部は、県歴史教育協議会や名古屋空襲を記録する会など参加三十団体の一つとして、戦争

作家への弾圧事件を加えました。参観者への展示説明のためにもうけたミニステージでは、荒川次郎県本部会長と役員によって戦争の原因説明をふくめた弾圧と戦争の体験を語り好評でした。

(水野晃治)

### 「治維法体制復活反対」 など申し合わせ

日本母親大会分科会

第49回日本母親大会には全国から九千人が集い、平和・いのちを守り、憲法九条を世界に響かせる思いをひとつにしました。開催地では、秋田県をはじめ県内の自治体後援、三十以上の市町村がバスを出しました。

全体会は、「平和の種時く人」になるうと呼びかけた大会宣言、憲法・教育基本法を守り抜く特別決議などを採択。平和問題分科会では同盟秋田県本部副会長の地主あや子さんが戦争と治安維持法の関係、秋田県に於ける同盟活動を詳しく報告。「治安維持法体制の復活に反対し、治安維持法の犠牲者への補償など国に戦争責任をとらせましよう」を申し合わせ事項として確認しました。

### 「映画評」

スパイ・ゾルゲ

一九二〇年代から四十年代までの日本および世界のできごとを客観的に描くなかでリヒャルト・ゾルゲおよび尾崎秀実を中心とした人間像を見事に描き上げている。第一次世界大戦で戦争の無意味さを痛感する。そして平和を求め一九一九年ドイツ共産党入党、一九二五年にはソビエト共産党入党、三〇年から上海で諜報活動を始める。

『スパイ』と言う言葉は何か冷徹で陰惨なイメージをうけるが、むしろ冷徹で残忍であったのは日本の特高警察やドイツのゲシュタポの方である。私はこの映画のタイトルは「人間・ゾルゲ」としたい。

映画の最後に流れたジョン・レノンの詩のテロップが印象的であった。「想像してごらん、決して難しいことではない、殺戮も死もなくなり、宗教の争いも消えてしまっ、想像してくれよ、すべての人間が、平和に暮らしている姿を、君はこんな私を夢想家と思うだろうか」  
(倉)

## 事務局 日誌

- 8月4日 事務局会議
- 8月6日 国連要請ツアー団、成田空港ホテルにて結団式。
- 8月7日 ツアー団出発(8日国内でNGOとフリーフィンギングを開く。9日ジョンソックスでジャパンデー開催 60名参加)
- 8月9日~13日 中央本部事務所 夏休み
- 8月15日 同盟8・15ピラ全国一斉配付
- 8月17日 国連要請ツアー団帰国
- 8月19日 不屈9月号企画編集/国連要請代表団2名(斎藤久枝 鳥袋達男)帰国
- 8月29日 裁判問題検討委員会開催(出席、中西会長ほか5名)
- おわび 前月号国会紹介議員一覧に「日森文尋(社民・市民)」が欠落、加筆致します。